

I. 一般概要

財団法人日本ゲートボール連合では、「いつでも、どこでも、だれでも」気軽に楽しむことができるゲートボールを通じて、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的に各種普及事業を推進している。平成 21 年度は、設立 25 周年の節目の年となったこともあり、特に加盟団体組織の強化を重点施策とし、これまでの普及事業と併せ、新たな取り組みとして、組織の活性化を主目的とした事業を柱として展開し成果を得た。

日本財団の助成金による「ゲートボール普及活動の推進」事業としては、加盟団体の更なる充実を図るため「加盟団体連繫プログラム」を実施し、団体の現状把握と課題点を抽出することにより、今後の組織運営と愛好者確保のための足がかりとし、実施団体の実情に合わせた活動を展開した。さらに、「地域指導者の育成」を目的に「親学・地域指導者研修会」「競技指導者研修会」を引き続き実施した。同じく日本財団助成事業として、「国際交流活動」による世界への普及を行った。

また、「ゲートボールの振興」事業としては、対象毎に「全国選抜大会」「全日本世代交流大会」「全国ジュニア大会」「全国社会人大会」を、各世代への競技の振興策として開催するとともに、競技レベルの向上を目的に「全日本選手権大会」「地域選手権大会」を自主事業として開催した。

普及・広報・情報開示を目的とする事業としては、機関誌発行・通信衛星による番組放送・公式ウェブサイトのリニューアル（平成 21 年度スポーツ振興くじ助成事業）を実施した。

これらの事業展開と合わせ、長年の悲願である「ゲートボールの国民体育大会正式競技種目採用」のための署名活動を引き続き展開し、関係諸機関へ要望を行った。

さらに、世界ゲートボール連合とアジアゲートボール連合からの業務委託により、例年どおり事務局業務を遂行したが、特に平成 22 年 9 月に中国・上海市で開催される「第 10 回世界ゲートボール選手権大会」の事前調査・現地メディアへの記者発表および打ち合わせを行った。

一方、公益法人改革に対する対応としては、20 年度に「公益財団法人」への移行認可申請が組織決定されたことにより、諸準備に着手した。

事務局は、17 年ぶりに一部改装したが、組織体制は、嘱託職員、臨時雇人等の採用により、日常業務に支障をきたさないよう配慮しながら、事務の合理化と人件費を含めた経費節減に努めた。

平成 21 年度も、監督官庁である文部科学省の指導と、関係団体の支援のもと、加盟団体と連携、協調して以下の事業を実施した。

II. 事務報告

1. 基本財産

平成 22 年 3 月 31 日現在の基本財産は、1 億円である。

※新会計基準により、財務諸表では債券が時価評価となり、期末の基本財産は、102,588,000 円となっている。

2. 役員等

(1) 役員（任期：平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

本連合の理事は 15 名以上 22 名以内、監事は 2 名である。平成 21 年 4 月 1 日現在の役員は理事 17 名、監事 2 名であり、平成 22 年 3 月 31 日現在の役員は、役員名簿（別表 1）のとおり理事 17 名、監事 2 名で、平成 21 年度における理事の異動はなかった。

(2) 評議員（任期：平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

本連合の評議員は 55 名以上 60 名以内である。平成 21 年 4 月 1 日現在の評議員は、58 名であり、平成 22 年 3 月 31 日現在の評議員は、評議員名簿（別表 2）のとおり 58 名である。また、平成 21 年度における評議員の異動は、次のとおり。

平成 21 年 5 月 29 日付 茨 城 糸谷 豊 ⇒ 石野雅昭

(3) 専門委員会委員（任期：平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

本連合には 3 部門の専門委員会があり、平成 22 年 3 月 31 日現在の各専門委員会委員は、専門委員会名簿（別表 3）のとおり総務財政委員 11 名、競技・審判委員 11 名（ドーピング防止委員会委員 3 名）、普及指導委員 10 名である。

3. 会議

本連合の事業遂行のため、理事会・評議員会・専門委員会を以下のとおり開催した。理事会・評議員会においては事業遂行の重要案件を審議し、各専門委員会においては会長の諮問等について審議し答申した。

(1) 理事会の開催

1) 第 70 回理事会 平成 21 年 5 月 29 日 於：海洋船舶ビル

審議事項

第 1 号議案 平成 20 年度事業報告ならびに収支決算に関する件

第 2 号議案 平成 22 年度日本財団への助成事業申請に関する件

第 3 号議案 規程の一部改正に関する件

第 4 号議案 評議員の変更に関する件

2) 第 71 回理事会 平成 22 年 3 月 4 日 於：江戸川競艇場内プ ラナクラブ

審議事項

第 1 号議案 平成 21 年度収支予算の一部補正に関する件

第 2 号議案 平成 22 年度事業計画ならびに収支予算に関する件

第 3 号議案 公益財団法人への移行に伴う最初の評議員の選任方法に関する件

- 第4号議案 規程の制定および一部改正に関する件
- 第5号議案 次期会長等の選出に関する件
- 第6号議案 次期評議員の選出に関する件
- 第7号議案 賛助会員の入会及び脱退に関する件
- 第8号議案 平成24年度日本連合主催全国大会の開催地に関する件

(2) 評議員会の開催

- 1) 第63回評議員会 平成21年5月22日 於：徳島グランヴィリオホテル
審議事項

- 第1号議案 平成20年度事業報告ならびに収支決算に関する件
- 第2号議案 平成22年度日本財団への助成事業申請に関する件
- 第3号議案 規程の一部改正に関する件

- 2) 第64回評議員会 平成22年3月3日 於：笹川記念会館
審議事項

- 第1号議案 平成21年度収支予算の一部補正に関する件
- 第2号議案 平成22年度事業計画ならびに収支予算に関する件
- 第3号議案 公益財団法人への移行に伴う最初の評議員の選任方法に関する件
- 第4号議案 規程の制定及び一部改正に関する件
- 第5号議案 任期満了に伴う役員改選に関する件
- 第6号議案 平成24年度日本連合主催全国大会の開催地に関する件

(3) 専門委員会の開催

- 1) 総務財政委員会

- 第1回総務財政委員会 平成21年11月9日・10日 於：海洋船舶ビル
審議事項

- ① 共済見舞金制度の見直し
- ② 加盟団体表彰の表彰基準の見直し
- ③ 公益財団法人への移行
- ④ 会員登録システムの構築

- 2) 競技・審判委員会

- 第1回 競技・審判委員会 平成21年11月30日・12月1日・2日 於：海洋船舶ビル
審議事項

- ① ゲートボール技能認定制度
- ② 審判員制度
- ③ 公式競技規則および審判実施要領
- ④ 全国大会について
- ⑤ リレーシヨンのルール化

審議事項

- ① 公式競技規則および審判実施要領
- ② ゲートボール技能認定制度
- ③ 審判員制度
- ④ 全国大会
- ⑤ リレーシヨンのルール化

4. 公益財団法人への移行

平成18年に関連法が施行された公益法人改革の中で、本連合では公益財団法人へ移行することについて平成20年度の評議員会、理事会で承認されているが、今年度は総務財政委員会、評議員会、理事会において、移行後の新しい法人の最初の評議員の選任方法について検討した結果、本連合では、「最初の評議員選任委員会」を設置して選任することとし、今後、文部科学省への認可申請を経て選任手続きを進め、平成22年度中の移行認可申請を目指し、文部科学省、内閣府、また、弁護士、公認会計士等の専門家と協議しつつ遺漏のないよう手続きを進める。

5. 規程の制定および一部改正

次の規程の制定および一部改正を行った。

- (1) 組織規程の改正（第63回評議員会、第70回理事会）
- (2) 専門委員会規程の改正（第63回評議員会、第70回理事会）
- (3) 文書処理規程の改正（第63回評議員会、第70回理事会）
- (4) ドーピング防止規程の改正（第63回評議員会、第70回理事会）
- (5) ゲートボール普及活動推進事業基金規程の制定（第64回評議員会、第71回理事会）
- (6) 最初の評議員選任委員会規則の制定（第64回評議員会、第71回理事会）
- (7) 審判員功労者表彰規程の改正（第64回評議員会、第71回理事会）
- (8) ゲートボール技能認定規程の改正（第64回評議員会、第71回理事会）

6. 事務局機構

平成22年3月31日現在の事務局機構は、別表4のとおり2部4課であり、職員12名である。

7. 届出事項

- (1) 文部科学省への届出
 - 1) 事業状況等の報告 3件
- (2) (財)日本体育協会へ届出
 - 1) 事業状況等の報告 3件
- (3) (財)日本レクリエーション協会への届出
 - 1) 事業状況等の報告 3件

Ⅲ. 事業報告

1. ゲートボールの普及事業

本年度は、ゲートボール愛好者の普及策や加盟団体の組織活性化のため、マネジメントを強化することを目的として加盟団体連繋プログラムを実施した。

また、「地域指導者の育成」事業においては、指導現場で生かすための新しい知識や情報を得るための地域指導者研修会、競技指導者研修会を実施し、指導者の資質向上に努めた。

(1) 加盟団体連繋プログラム(日本財団助成事業) (2,465万円)

本連合と加盟団体、加盟団体と傘下の支部市町村団体が情報を共有し、協働できる体制を整え、連携強化を図った。また、それぞれの団体の実情や課題を抽出し、地域性、独自性を活かした事業を展開した。

1) 中央説明会の開催 開催場所：東京都港区 海洋船舶ビル

対象となる加盟団体に事業内容や進め方などを説明するなど事前調整を行った。

期 日	出 席 団 体
4月24日・25日	和歌山・高知・鹿児島
5月26日・27日	青森・秋田
5月14日・15日	石川・山梨・鳥取・愛媛・宮崎

2) 事業実施団体訪問

事務局体制や活動状況、財務状況の確認および地域性や特性の把握、関係者との情報交換などを目的に当該団体を訪問した。また、県教育委員会や県体育協会等関係機関にも足を運び、国体正式種目採択への働きかけを行った。

団 体	訪 問 日	団 体	訪 問 日
青 森	6月29日～7月2日	秋 田	7月26日～7月29日
石 川	8月17日～8月20日	山 梨	7月1日～7月3日
和 歌 山	6月28日～7月1日	鳥 取	7月13日～7月16日
愛 媛	8月24日～8月27日	高 知	8月20日～8月23日
宮 崎	7月28日～7月31日	鹿 児 島	7月13日～7月16日

3) 主な実施事業

団 体	実 施 事 業	団 体	実 施 事 業
青 森	指導者育成研修会	秋 田	組織力向上意見交換会
石 川	世代別競技者育成	山 梨	リレーション(チャリティ)大会
和 歌 山	初心者教室、ミドル大会、指導者育成研修会	鳥 取	ミドル世代の活性化
愛 媛	初心者教室、チャリティ大会	高 知	チャリティ大会
宮 崎	指導者研修会	鹿 児 島	地区市町村代表者・事務担当者研修会

4) 加盟団体マネジメント・セミナー

情報の共有と各地の情報交換を行うため加盟団体の役職員を招集して開催した。

今回は加盟団体連繋プログラムの実践の成果を発表するとともに、アンチ・ドーピングに関する理解を深めるため、(財)日本アンチ・ドーピング機構から講師を招き、ドーピング防止研修会をはじめて実施した。

実施場所	会 場	実 施 日	参加者数
東京都港区	海洋船舶ビル	平成22年3月11日(木) 3月12日(金)	56

(2) 地域指導者の育成 (日本財団助成事業) (428万円)

1) 地域指導者の育成

「親学」の講師、オリンピック金メダリスト、総合型地域スポーツクラブ担当者等を講師に招き、講演をとおして地域指導者の知識を深めるとともに次世代愛好者であるミドル世代の普及策を研究・協議し総合型地域スポーツクラブへの参画を推進した。

さらにスポーツ指導者の資格を有する講師を招聘し、ジュニア・ユース世代のプレーヤーを育成している指導者の研修会なども実施した。

平成21年度「親学・地域指導者研修会」開催一覧表

実施団体	開 催 場 所	実 施 日	参加者数
埼玉	すぱーく東松山	平成22年1月23日(土) 平成22年1月24日(日)	6
千葉	マイステイズ新浦安	平成22年2月28日(日)	79
熊本	萱野公民館 屋内ゲートボール場	平成22年1月17日(日)	43
合 計			128

2) 競技指導者研修会

加盟団体の競技指導者を育成することを目的とし、審判法や競技運営方法などを確認し、競技指導者の指導力を高める研修会を行った。

平成21年度「競技指導者研修会」開催一覧表

実施団体	開 催 場 所	実 施 日	参加者数
徳島	鳴門・大塚スポーツパーク	平成21年5月10日(日)	159
埼玉	彩の国くまがやドーム	平成21年8月2日(日)	138
富山	すぱーく富山ほか	平成21年8月16日(日)	252
栃木	すぱーく栃木	平成21年8月26日(水)	66
合 計			615

(3) モデル校を指定する助成事業(210万円)

全国各地の高等学校にゲートボールのクラブ・同好会の発足を促し、高等学校でのゲートボール活動のモデルとなるよう一定の期間、支援・協力を行う本事業も第8期目を迎え、全国ジュニア大会への参加や他校との交流、都道府県高等学校体育連盟への加盟促進などに努力することを条件としてモデル校として新たに3校を指定した。

なお、第7期のモデル校は、今年度で事業を終了した。

第7期(平成20・21年度)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1) 昌平高等学校(埼玉) | 2) 南京都高等学校(京都) |
| 3) 県立河浦高等学校(熊本) | 4) 鹿児島情報高等学校(鹿児島) |

第8期(平成21・22年度)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1) 太田市立商業高等学校(群馬) | 2) 興讓館高等学校(岡山) |
| 3) 県立南大隅高等学校(鹿児島) | |

(4) ユースゲートボール連盟への支援

高校生・大学生を中心とする10～20歳代のユース世代を対象としたユースゲートボール連盟の事業を支援した。なお、同連盟では下記の大会を開催した。

- 1) 第6回高校ゲートボール交流会
- 2) 第7回全国ユースゲートボール親善大会
- 3) 第7回高校ゲートボール大会
- 4) 秋季ユースゲートボール親善大会
- 5) 第1回新年ユースゲートボール親善大会
- 6) 春季ユースゲートボール大会

2. 審判員資格の認定事業(15,157万円)

(1) 地域別審査委員会の開催

地域情報の共有化と各加盟団体の連携強化を図るとともに、同一の審査基準により審判員資格試験の円滑な運営を促すため、地域協議会ごとに審査委員会を開催した。

審査委員会の開催(平成21年度)

地域	開催日	開催地	地域	開催日	開催地
北海道	5月9日	北海道札幌市	東海	6月11日	愛知県名古屋市
東北	5月14日	宮城県仙台市	近畿	6月2日	大阪府大阪市
北信越	7月23日	新潟県三条市	中国	3月31日	岡山県真庭市
北関東	6月18日	埼玉県熊谷市	四国	7月11日	徳島県東みよし町
南関東	6月3日	東京都港区	九州	6月3日	福岡県福岡市

会議内容

- 1) 審査委員長の選出に関する件
- 2) 平成20年度年度資格試験および審査委員派遣の報告に関する件
- 3) 平成21年度資格試験および審査委員派遣の計画に関する件

(2) 審判員資格試験の実施

競技を公正かつ円滑に実施するために必要不可欠な審判員の増加と技能向上を図るため、地域協議会の審査委員会ならびに加盟団体の実施委員会の協力を得て、各級の審判員資格試験を実施した。

受験者数および合格者数（平成21年度）

	受験者	合格者	備考
1 級	703	692	39加盟団体で実施
2 級	1,137	1,104	40加盟団体で実施
3 級	5,357	5,355	47加盟団体で実施
合計	7,197	7,151	

*詳細は「審判員資格試験実施結果一覧表」（10ページ）参照

(3) 審判員の登録と登録更新の実施

競技を公正かつ円滑に実施するために必要不可欠な審判員の維持と技能向上を図るため、加盟団体の協力を得て、各級の登録や審判員資格更新講習会を実施した。

また、昨年度に引き続き、85歳以上の審判員を対象とした永年審判員の登録を実施した。

新規登録者数および登録更新者数（平成21年度）

	新規登録者	登録更新者	合計
1 級	727	6,941	7,668
2 級	1,107	8,381	9,488
3 級	5,420	39,890	45,310
合計	7,254	55,212	62,466

*詳細は「審判員新規登録者数・登録更新者数一覧表」（11ページ）参照

*審判員の登録者数は「審判員級別一覧表」（12ページ）参照

永年審判員登録者数（平成21年度）

	1 級	2 級	3 級	合計
新規登録者	12	10	6	28

*永年審判員の登録者数は「永年審判員級別一覧表」（13ページ）参照

(4) 国際審判員資格試験および登録更新の実施

国際的な公式競技を校正かつ円滑に進行するために世界ゲートボール連合が認定している国際審判員の日本国内における増加と技能向上を図るため、地域協議会の協力を得て、資格試験や更新講習会を実施した。

なお、平成22年3月31日現在の国際審判員は、世界14加盟団体で計471名が登録している。

国際審判員登録者数一覧表（日本国内）

項目 加盟団体	受験者数	合格者数	新規登録者数	登録更新者数	累計
新 潟	7	7	0	23	23
富 山	1	1	0	0	0
福 井	0	0	0	3	3
長 野	7	7	0	0	0
滋 賀	0	0	0	0	3
京 都	0	0	0	0	4
大 阪	0	0	0	0	15
兵 庫	0	0	0	0	45
奈 良	0	0	0	0	6
和 歌 山	0	0	0	0	1
鳥 取	0	0	0	2	2
島 根	6	6	0	4	4
岡 山	0	0	0	4	4
広 島	7	7	0	4	4
徳 島	0	0	0	0	10
香 川	0	0	0	0	17
合計	28	28	0	40	141

3. 指導者制度(122万円)

(1) 「専門科目」および「準指導員養成科目」講習・検定試験の実施

普及指導者制度の充実と加盟団体の普及指導体制の確立を図るため、次のとおり指導者の養成を行った。なお、下記のとおり今年度は準指導員の実施となり、専門科目講習を30名が受講し全員が合格したので、今後、共通科目を受講する。

1) 「準指導員養成講習会」の開催

加盟団体	期 間	開催地	受講者	合格者
長 野	平成22年3月9日～11日	長野県諏訪市	30	30
合 計			30	30

2) 公認スポーツ指導員の登録者数

前年度までに専門科目を修了し、新たに(財)日本体育協会に登録された指導員は、74名(平成22年3月31日現在)となった。なお、加盟団体の平成21年度の登録者数は、次のとおり。

加盟団体	新 規	登録者数	加盟団体	新 規	登録者数
北 海 道	0	32	滋 賀	0	37
青 森	0	8	京 都	0	58
岩 手	0	20	大 阪	0	57
宮 城	0	30	兵 庫	0	44
秋 田	0	10	奈 良	0	3
山 形	0	24	和 歌 山	0	4
福 島	0	23	鳥 取	0	6
茨 城	0	44	島 根	0	18
栃 木	0	32	岡 山	0	60
群 馬	0	4	広 島	0	57
埼 玉	20	150	山 口	0	13
千 葉	0	33	徳 島	0	35
東 京	0	43	香 川	4	53
神 奈 川	0	88	愛 媛	0	23
新 潟	25	153	高 知	0	15
富 山	0	10	福 岡	0	30
石 川	0	38	佐 賀	0	15
福 井	0	21	長 崎	0	35
山 梨	0	30	熊 本	0	10
長 野	27	261	大 分	0	26
岐 阜	0	112	宮 崎	0	36
静 岡	0	48	鹿 児 島	0	21
愛 知	0	16	沖 縄	0	3
三 重	0	38	合 計	76	1,927

4) 準指導員の登録者数

本連合に登録されている「準指導員」は49名（平成22年3月31日現在）となった。
 なお、加盟団体の平成21年度の更新者数は、次のとおり。

加盟団体	新規	更新	登録者数	加盟団体	新規	更新	登録者数
北海道	0	0	7	滋賀	0	0	0
青森	0	0	2	京都	0	0	0
岩手	0	0	0	大阪	0	0	0
宮城	0	0	1	兵庫	0	0	0
秋田	0	0	1	奈良	0	0	0
山形	0	0	0	和歌山	0	0	0
福島	0	0	0	鳥取	0	0	0
茨城	0	0	0	島根	0	0	0
栃木	0	0	2	岡山	0	0	18
群馬	0	0	0	広島	0	0	1
埼玉	0	0	0	山口	0	0	0
千葉	0	0	0	徳島	0	0	0
東京	0	0	0	香川	0	0	0
神奈川	0	0	0	愛媛	0	0	0
新潟	0	0	0	高知	0	0	0
富山	0	0	0	福岡	0	2	3
石川	0	0	0	佐賀	0	0	0
福井	0	0	0	長崎	0	0	7
山梨	0	0	0	熊本	0	0	0
長野	0	0	1	大分	0	0	0
岐阜	0	2	2	宮崎	0	0	0
静岡	0	0	0	鹿児島	0	0	0
愛知	0	0	0	沖縄	0	0	0
三重	0	0	4	合計	0	4	49

4. 技能認定制度の実施(1,107万円)

ゲートボールの技能向上をねらいとして平成20年度より導入した技能認定制度を、本年度は、29加盟団体で実施し、1,719名が技能保持者として登録した。

加盟団体別の登録者は次のとおり。

ゲートボール技能認定制度 受検者数・登録者数（平成21年度）

加盟 団体	受検 者数	I G S登録者数			加盟 団体	受検 者数	I G S登録者数		
		1級	2級	3級			1級	2級	3級
北海道	36	36	0	0	京 都	163	158	1	2
岩 手	58	52	0	0	大 阪	18	18	0	0
宮 城	151	151	0	0	兵 庫	272	272	0	0
山 形	14	14	0	0	奈 良	13	13	0	0
福 島	37	36	0	0	和歌山	4	4	0	0
栃 木	32	32	0	0	愛 媛	7	7	0	0
千 葉	56	37	13	0	福 岡	107	50	42	2
東 京	61	58	0	0	佐 賀	89	77	6	0
神奈川	14	14	0	0	長 崎	39	39	0	0
新 潟	94	44	34	14	熊 本	43	43	0	0
福 井	31	31	0	0	大 分	20	20	0	0
長 野	265	265	0	0	宮 崎	21	21	0	0
岐 阜	37	2	31	4	鹿児島	26	23	0	0
静 岡	13	9	4	0	沖 縄	27	27	0	0
三 重	13	11	2	0	合 計	1,761	1,564	133	22

ゲートボール技能保持者数（平成22年3月31日現在）

加盟 団体	I G S技能保持者数			加盟 団体	I G S技能保持者数		
	1級	2級	3級		1級	2級	3級
北海道	83	0	0	京 都	158	1	2
岩 手	186	0	0	大 阪	18	0	0
宮 城	151	0	0	兵 庫	463	0	0
山 形	56	0	0	奈 良	13	0	0
福 島	36	0	0	和歌山	4	0	0
茨 城	22	0	0	香 川	10	0	0
栃 木	32	0	0	愛 媛	7	0	0
埼 玉	77	0	0	福 岡	107	42	2
千 葉	37	13	0	佐 賀	77	6	0
東 京	58	0	0	長 崎	39	0	0
神奈川	14	0	0	熊 本	43	0	0
新 潟	173	34	14	大 分	20	0	0
福 井	31	0	0	宮 崎	21	0	0
長 野	265	0	0	鹿児島	23	0	0
岐 阜	31	31	4	沖 縄	27	0	0
静 岡	48	4	0	合 計	2,353	133	22
三 重	23	2	0				

5. リレーション（2人制・3人制ゲートボール）

リレーションは、ミドル層やジュニア層を中心に幅広い世代にも支持されるようになり、競技会も各地で開催されるようになった。少人数でも無理なくチームを編成し、スピーディーに運動量豊富なゲームが展開できることが理解され、知的コミュニケーションスポーツとして定着しつつあり、ゲートボールの普及活動において、通常の競技（5人制）とともに、リレーションの重要性を認識した。

6. 大会の主催

ゲートボールの技能向上や加盟団体会員間の相互交流を図ることを目的として、毎年各種全国大会を開催している。この全国大会は、ゲートボール界の発展やゲートボール競技のステータス向上に寄与するだけでなく、会員間の団結力の強化や、経済効果を含めた地域振興に貢献した。

(1) 全国大会（7,934万円）

1) 笹川良一杯 第24回全国選抜ゲートボール大会（日本財団助成事業）

年齢・性別により4クラスに分けてチームを編成し、それぞれ同じような環境で競い合うことを目的に、本大会を開催した。

期 日 平成21年5月23日（土）・24日（日）

開 催 地 徳島県鳴門市

会 場 鳴門・大塚スポーツパーク

ポカリスエットスタジアム 第二陸上競技場

主 管 徳島県ゲートボール協会

参加チーム 192チーム

参加人数 1,128名

成 績

順位	<シニアクラス>		<シニアレディースクラス>	
	チーム名	加盟団体	チーム名	加盟団体
優勝	高山西平石油	鹿児島	加賀錦城	石川
準優勝	新庄笠杖	岡山	埼玉SLファミリー	埼玉
第3位	那賀町	徳島	高知香南	高知
	今治おんまく	愛媛	わかしお	佐賀

順位	<ミドルクラス>		<ミドルレディースクラス>	
	チーム名	加盟団体	チーム名	加盟団体
優勝	オール岩手	岩手	鹿児島錦クラブ	鹿児島
準優勝	健祥会	徳島	大和五條レディース	奈良
第3位	大阪みどり	大阪	苫小牧スマイル	北海道
	無 限	高知	まるよし	沖縄

2) 内閣総理大臣杯 第26回全日本世代交流ゲートボール大会（日本財団助成事業）

ゲートボールを通じて高齢者・青壮年・子供がともに楽しむ世代間交流を図ることにより、調和のとれた地域コミュニティを創造することを目的とし、本大会を開催した。

期 日 平成21年8月8日（土）・9日（日）
 開 催 地 埼玉県熊谷市
 会 場 熊谷スポーツ文化公園 彩の国くまがやドーム
 主 管 埼玉県ゲートボール連盟
 参加チーム 48チーム
 参加人数 310名
 成 績

順位	チーム名	加盟団体
優勝	フ レ ン ド ス ポ ー ツ B	鹿 児 島
準優勝	小 松 島 B	徳 島
第3位	フ レ ン ド ス ポ ー ツ A	鹿 児 島
	大 阪 み ど り	大 阪
第4位	六 ツ 美	愛 知
	白 根 凧	新 潟
	小 松 島 A	徳 島
	坂 下	島 根
敢闘賞	六 ツ 美	愛 知

3) 第14回全国ジュニアゲートボール大会（日本財団助成事業）

都道府県から選ばれたゲートボールを愛好する児童・生徒が、競技を通じた交流のもとに相互の友好を深めることにより、次代を担う児童・生徒の心身の健全な育成を目的とし、本大会を開催した。

期 日 平成21年8月8日（土）・9日（日）
 開 催 地 埼玉県熊谷市
 会 場 熊谷スポーツ文化公園 彩の国くまがやドーム
 主 管 埼玉県ゲートボール連盟
 参加チーム 75チーム
 参加人数 525名
 成 績

<ジュニア男子1部クラス>

順位	チーム名	加盟団体
優勝	南 大 隅 高 校	鹿 児 島
準優勝	フ ェ ニ ッ ク ス 京 都	京 都
第3位	健 友 会 ジ ュ ニ ア	広 島
	佐 々 木 J r .	新 潟

<ジュニア女子1部クラス>

順位	チーム名	加盟団体
優勝	作 新 ク ラ ブ	栃 木
準優勝	朝 霞 ク ラ ブ A	埼 玉
第3位	出 雲 西 高 校	島 根
	K U R E	広 島

<ジュニア2部クラス>

順位	チーム名	加盟団体
優勝	M A N A B U 会 J r .	福 岡
準優勝	大 泊 ・ ド ラ え も ん	鹿 児 島
第3位	ジ ュ ニ ア 島 根	島 根
	大 垣 ジ ュ ニ ア	岐 阜

4) 第11回全国社会人ゲートボール大会（日本財団助成事業）

社会人の健康の保持増進、職場内の親睦、勤労意欲の向上を図り、活力ある社会づくりに寄与することと、企業スポーツとしてのゲートボールの普及振興に資することを目的とし、本大会を開催した。

期 日 平成21年9月12日（土）・13日（日）

開 催 地 栃木県栃木市

会 場 栃木市総合運動公園 陸上競技場

主 管 栃木県ゲートボール協会

参加チーム 40チーム

参加人数 252名

成 績

順位	チーム名	加盟団体
優勝	札幌市役所 G B 同好会	北 海 道
準優勝	北 建 ジ ー ン ズ	福 岡
第3位	元 永 工 業	埼 玉
	霧 島 市 消 防 局	鹿 児 島

5) 文部科学大臣杯 第25回全日本ゲートボール選手権大会

わが国の最高位チームを決定し、ゲートボール競技の技能向上やさらなる普及を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とし、本大会を開催した。

なお、第10回世界ゲートボール選手権大会の日本代表選考会を兼ねた大会とした。

期 日 平成21年10月24日（土）・25日（日）

開 催 地 富山県砺波市

会 場 砺波総合運動公園 砺波市多目的競技場

主 管 特定非営利活動法人富山県ゲートボール協会

参加チーム 48チーム

参加人員 311名

成 績

順位	チーム名	加盟団体
優勝	フレンズスポーツクラブ A	鹿 児 島
準優勝	京 都 亀 々 倶 楽 部	京 都
第3位	黒 田 庄	兵 庫
	能 美 シ テ イ	石 川

6) 都道府県加盟団体総合成績について

本連合主催の全国大会における参加チームの「参加ポイント」・「競技ポイント」・「入賞ポイント」を合計し、平成21年度の総合成績を次のとおり決定した。

なお、各大会でのポイント等については、全国ゲートボール大会開催要領による。

平成21年度都道府県加盟団体総合成績

順位	加盟団体	ポイント
第1位	鹿 児 島 県 ゲ ー ト ボ ー ル 協 会	156
第2位	徳 島 県 ゲ ー ト ボ ー ル 協 会	100
第3位	埼 玉 県 ゲ ー ト ボ ー ル 連 盟	90

(2) 地域大会(1,886万円)

全国の10地域協議会において、それぞれの地域協議会を構成する加盟団体相互の交流と愛好者の技術力向上を目的に、地域選手権大会を開催した。

また、地域協議会ごとにジュニア大会、ミドル大会等が地域協議会主導で開催され、若年層の普及促進に資するとともに、各地域の愛好者のニーズに応えた。

1) 地域選手権大会

地域	開催地	開催日	参加チーム数	優勝チーム
北海道	北海道	7月11日・12日	40	小樽スパーククラブA
東北	青森	8月22日・23日	24	宮城広瀬C(無制限)
			32	盛岡東(65才以上)
北信越	福井	5月30日・31日	100	さかい駅前
北関東	茨城	8月29日・30日	64	ゲートスターズ
南関東	山梨	9月23日	32	神奈川覚
東海	静岡	10月10日	48	狐 穴
近畿	兵庫	9月19日・20日	120	大阪みどり
中国	島根	10月24日・25日	40	友和会(一般)
			20	富益レディース(女子)
四国	徳島	6月7日	48	中野友好会
九州	大分	11月7日・8日	64	永 山

2) 地域ジュニア大会

地域	開催地	開催日	参加チーム数	優勝チーム
東北	青森	8月22日・23日	2	針生スポーツ少年団
南関東	山梨	8月7日	4 7	開成高校(1部) 清瀬二中(2部)
四国	徳島	7月5日	3	高松ジュニア
九州	鹿児島	8月1日・2日	4 2	南大隅高校(1部) 佐多・ドラえもん(2部)

3) 地域ミドル大会

地域	開催地	開催日	参加チーム数	優勝
四国	徳島	7月19日	24	徳島県
九州	鹿児島	8月1日・2日	20	UMI パートII

7. アンチ・ドーピング活動の展開

本年度は財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）に加盟し、スポーツ競技団体として、スポーツの価値を否定し、フェアプレーの精神に反し、競技者の健康を害し、反社会的行為であるドーピングの防止活動をおこなった。

なお、3月に開催したマネジメント・セミナーでは、各都道府県加盟団体の事務局員を対象に、JADA事務局職員による「ドーピング防止研修会」を実施し、アンチ・ドーピングに関する理解を深めることができた。

8. 各種大会の後援等

中央省庁等が関係する行事に対して、開催地加盟団体の協力のもと主催または後援し、ゲートボールの普及発展および参加者相互の交流に寄与した。

(1) 第22回全国スポーツ・レクリエーション祭（ゲートボール競技）

期 日	平成21年10月18日（日）・19日（月）
開催地	宮崎県宮崎郡清武町
会場	清武町総合運動公園多目的グラウンド
主催	文部科学省、(財)日本ゲートボール連合、(財)日本体育協会 (財)日本レクリエーション協会、(社)全国体育指導委員連合 宮崎県、清武町
主管	宮崎県実行委員会、(財)宮崎県体育協会、宮崎県ゲートボール協会、 清武町実行委員会
参加チーム	96チーム（韓国2チーム含む）
参加人数	864名

(2) 第22回全国健康福祉祭北海道・札幌大会（ゲートボール交流大会）

期 日	平成21年9月5日（土）～7日（月）
開催地	北海道河西郡芽室町

会 場	芽室南公園運動広場・芽室町健康プラザ
主 催	厚生労働省、北海道、札幌市、(財)長寿社会開発センター、 ねんりんピック北海道・札幌 2009 実行委員会、芽室町、ねんりん ピック北海道・札幌 2009 芽室町実行委員会
主 管	北海道ゲートボール連合
後 援	(財)日本ゲートボール連合
参加チーム	168 チーム
参加人数	1,069 名

(3) 「国土交通大臣杯」第 21 回全国・離島交流ゲートボール親善大会

期 日	平成 21 年 10 月 23 日 (金) ～25 日 (日)
開 催 地	三重県鳥羽市答志島
会 場	答志小学校、答志中学校、桃取小学校、答志コミュニティアリーナ
主 催	三重県鳥羽市 第 21 回全国・離島交流ゲートボール親善大会実行 委員会
主 管	三重県ゲートボール連合会
後 援	国土交通省、(財)日本ゲートボール連合、全国離島振興協議会、(財) 日本離島センター、三重県、三重県全国離島振興三重県支部連絡協 議会、(財)三重県体育協会、(社)三重県レクリエーション協会、鳥 羽商工会議所、鳥羽市観光協会、鳥羽磯部漁業協同組合、全国離島 振興鳥羽協議会
参加チーム	80 チーム
参加人数	443 名

9. ゲートボール用具の認定 (49万円)

ゲートボール用具認定規程や同実施要領に準拠し、競技が公正かつ安全に行えることを目的とした用具の認定基準を定め、第三者機関の検査により、これに合格したゲートボール用具を認定するとともに、認定証紙 (シール) を継続して発行した。

また、ゲートボール用具について本連合と認定契約を締結している業者同士が組織する日本ゲートボール認定用品工業会と、組織の確立や将来に向けた話し合いの場を設け、同会の今後の指針に関する意見交換を行った。

10. 国民体育大会の正式競技種目採用への活動

文部科学省および (財) 日本体育協会で進められている国体改革のなかで、ゲートボール種目は、以前からのデモンストレーション競技から公開競技に移行することが決定した。

しかし、公開競技は天皇杯・皇后杯のポイントの対象にならず、普及のきっかけとするには弱いことから、以前からの目標どおり、正式競技種目採用の早期実現に向け、署名活動の継続のほか、ゲートボール振興議員連盟等の支援を受けながら、加盟団体を通じ各都道府県体育協会へも働きかけを行った。

1 1. 大会協賛企業ならびに賛助会員の募集

本連合の円滑な事業運営を図るため、全国大会への協賛ならびに賛助会員の募集活動を積極的に行った。

(1) 大会協賛企業

本連合主催の全国大会にご協賛いただいた企業等は次のとおり(順不同)。

山崎製パン株式会社

財団法人競艇振興センター(通称:BOAT RACE振興会)

独立行政法人日本スポーツ振興センター

名鉄観光サービス株式会社

トップツアー株式会社

日本通運株式会社 首都圏旅行支店

近畿日本ツーリスト株式会社

株式会社日本レジャーチャンネル

株式会社ニチヨー

株式会社シャトル

株式会社ティエヌケイ

株式会社本郷

株式会社サンシャインスポーツ

有限会社やるき産業

有限会社バモス

(2) 賛助会員

平成21年度においては、1社の入会および2社の脱会があった。

平成22年3月31日現在の賛助会員33社は次のとおり。(順不同)

会社名	所在地
(株)ニチヨー	栃木県足利市堀込町 2451
(株)サンシャインスポーツ	長野県松本市島内 5330
村上木工挽物(有)	埼玉県和光市白子 3-36-40
(株)サン	新潟県三条市下須頃 5-1
(株)ワールドダイヤモンド	東京都世田谷区成城 5-9-14
(株)シャトル	福井県越前市家久町 87-21-1
(株)ロンウッド	富山県南砺市法林寺 518
(株)本郷	広島県廿日市市木材港北 1-4
(株)サンラッキー	大阪府大阪市東成区大今里 3-12-23
(株)ティエヌケイ	埼玉県川越市松江町 1-12-8

(有)福島木工所	熊本県熊本市世安町 36
(有)やるき産業	熊本県熊本市西原 2-11-49
羽立工業 (株)	静岡県湖西市新所 3
(株)ウシクボ	東京都墨田区東向島 6-15-7
井上工業(株)	兵庫県加東市上滝野 1613
(株)かいせい	東京都港区西新橋 2-15-3
トップツアー(株)	東京都新宿区西新宿 1-20-2
(株)東京ビー・エム・シー	東京都港区虎ノ門 1-11-2
日本通運(株)首都圏旅行支店	東京都港区東新橋 1-9-3
大日本トラベル(株)	東京都港区新橋 4-6-6
(株)セディナ	東京都新宿区西新宿 3-6-11
東日観光(株)	東京都中央区築地 4-7-5
(株)天賞堂	東京都中央区銀座 4-3-9
(株)大真	東京都千代田区岩本町 3-7-13
ブロードマインド (株)	東京都品川区東五反田 1-14-10
近畿日本ツーリスト (株)	東京都千代田区神田松永町 19-2
(株)恒亜印刷	東京都文京区千石 2-4-5
エーアンドエー (株)	東京都千代田区西神田 3-3-5
(株)アオイスports企画	神奈川県川崎市多摩区菅仙谷 4-6111-1
名鉄観光サービス (株)	東京都品川区西五反田 2-12-3
(株) エヌ・エル・エー	福岡県福岡市博多区店屋町 3-20
(株) サンワ	埼玉県戸田市新曽 2002 市ヶ谷ビル
* (株) 日本旅行	東京都港区新橋 2-20-15

*は、平成 21 年度入会

12. 共済見舞金事業(4,696 万円)

本制度はゲートボール会員の相互扶助の精神に基づき、愛好者が安心してプレーを楽しめる環境を提供し、給付対象事故に所定の見舞金を給付した。平成 21 年度の加入者数は、159,622 名となり、前年度と比較して 14,580 名減少したにもかかわらず、給付件数は 36 件の増加となった。

なお、保険業法の改正に対応し、本制度を維持継続させるため、金融庁と協議した結果、平成 22 年度に規程の一部を改正し、給付額を改定することとなった。

*「加入者数および事故発生状況一覧表」(26 ページ)参照

年度別共済見舞金制度運営実績一覧

	加入者数	給付件数	死亡	入院	通院	見舞金給付額 (円)
昭和 62 年度	249,314	411	26	119	266	34,100,000
昭和 63 年度	271,371	504	32	178	294	43,895,000
平成 1 年度	298,674	414	37	138	239	40,545,000
平成 2 年度	301,400	474	28	189	257	38,600,000
平成 3 年度	313,280	507	43	173	291	49,655,000
平成 4 年度	302,957	480	46	192	242	49,775,000
平成 5 年度	299,854	412	23	155	234	32,580,000
平成 6 年度	292,867	398	25	148	225	34,260,000
平成 7 年度	289,263	364	24	153	187	33,040,000
平成 8 年度	286,614	395	40	160	195	44,750,000
平成 9 年度	285,943	378	21	167	190	30,940,000
平成 10 年度	284,074	386	37	172	177	41,120,000
平成 11 年度	281,196	316	24	128	164	29,355,000
平成 12 年度	282,074	385	27	158	200	33,990,000
平成 13 年度	269,960	351	33	150	168	39,195,000
平成 14 年度	262,324	304	30	131	143	33,100,000
平成 15 年度	252,923	311	21	154	136	29,280,000
平成 16 年度	237,006	278	23	124	131	26,130,000
平成 17 年度	222,926	257	19	111	127	23,655,000
平成 18 年度	207,053	219	14	107	98	19,145,000
平成 19 年度	188,361	195	12	90	93	16,845,000
平成 20 年度	174,202	157	9	88	60	14,845,000
平成 21 年度	159,622	193	20	84	89	23,075,000
平均	261,446	352	27	142	183	33,125,000

平成 21 年度ランク別傷病件数

	Aランク			Bランク			Cランク			合計			
	死亡	入院	通院	死亡	入院	通院	死亡	入院	通院	死亡	入院	通院	計
骨折	0	26	29	0	0	0	0	17	7	0	43	36	79
打撲	0	2	9	0	0	0	0	2	10	0	4	19	23
挫傷	0	1	9	0	0	0	0	1	4	0	2	13	15
捻挫	0	0	7	0	0	0	0	0	7	0	0	14	14
心臓器障害	0	0	0	8	11	0	0	2	0	8	13	0	21
脳疾患	0	0	0	4	7	0	2	2	0	6	9	0	15
その他	0	2	6	4	9	0	2	2	1	6	13	7	26
合計	0	31	60	16	27	0	4	26	29	20	84	89	193

1 3. 功労者等の表彰(432 万円)

永年にわたりゲートボールの普及に功績のあった個人ならびに本連合の諸事業に顕著な功績のあった加盟団体を表彰した。

1) ゲートボール功労者表彰

ゲートボールの普及活動や組織運営に顕著な功労のあった方を、加盟団体からの推薦により、46 名を表彰した。

2) 健康功労者表彰

加盟団体からの推薦により、ゲートボールを通じ永年健康を維持し医療費の軽減に努め、他の模範となった 70 歳以上、289 名を表彰した。

3) 審判員功労者表彰

審判員功労者表彰規程に基づき、審判員の資格を取得し永年にわたり審判員として大会運営等に積極的に参加し、顕著な功績のあった 923 名を表彰した。

4) 加盟団体表彰

平成 22 年 3 月 31 日現在の会員数・審判員数・指導員数・共済見舞金制度加入者数・機関誌購読者数等に基づき、日本連合の諸事業に貢献した加盟団体のうち、下記の上位 3 団体と部門 1 位団体を表彰した。

総 合	1 位	新潟県ゲートボール連盟
	2 位	埼玉県ゲートボール連盟
	3 位	長野県ゲートボール連盟
登録会員数の部 (対前年比会員数増減率)	(特)	東京ゲートボール連合
登録審判員の部 (対前年比会員比審判員登録率)		高知県ゲートボール協会
共済見舞金制度加入率の部 (対会員比)	(特)	富山県ゲートボール協会
指導員登録率の部 (対会員比)		高知県ゲートボール協会
機関誌有料購読率の部 (対会員比)		青森県ゲートボール協会

1 4. 会員管理システムの構築準備

会員のデータベース化を図り、各種文書の統一化と事務の合理化を図る目的で会員登録システムを構築するため、随時、加盟団体の意見を聞くとともに、総務財政委員会で検討した。

1 5. 広報活動および啓蒙活動

機関誌の発行とテレビ放映を中心とした広報活動を展開し、さらに、インターネットを活用し各種情報を発信した。

(1) 機関誌発行事業(4,035 万円)

ゲートボール界唯一の情報誌として機関誌「ナイスパル」を年 12 回 (毎月 10 日) 発行した。掲載内容はゲートボール全般の多岐にわたることから、各地域からの情報をもとに、本連合主催の全国大会の案内・成績の公表、加盟団体連繋プログラム等国内外での各種普及事業の活動状況、各地域における大会等の紹介、さらに、ルールや作戦の解説、購読者からのお便り紹介等購読者のニーズを探りながら誌面づくりをした。

(2) ウェブサイトによる広報 (370 万円)

独立行政法人日本スポーツ振興センター (スポーツ振興くじ) の助成金により、全面的リニューアルを行った。

公益法人として必要な情報公開についてもこのウェブサイトを活用するとともに、昨年開設したブログとの連携を図り、文部科学省、(財) 日本体育協会、(財) 日本レクリエーション協会等関係諸機関のウェブサイトとの相互リンクを拡充し、利便性の向上とゲートボールの認知度向上を図った。

(3) 刊行物・入門ツールの充実 (320万円)

公式競技規則および審判実施要領の理解促進や、ゲートボールの上達方法・作戦についての出版刊行物を発行した。

また、頭脳スポーツ、コミュニケーション・スポーツとしてのゲートボールの新たな可能性を引き出す「リレーションー 2 & 3」等のパンフレットについても引き続き配布した。

さらに各地の指導員が地域での普及活動に利用できるよう、「普及マニュアルブック」と DVD の作成・配布も行った。

- | | |
|---------|--|
| 主な出版刊行物 | <ul style="list-style-type: none">・公式ゲートボール競技規則2007・審判実施要領2007・ルールの解説『Q & A』(競技規則2007対応版)・1・2級審判員資格試験想定問題集 (競技規則2007対応版)・3級審判員資格試験想定問題集 (競技規則2007対応版)・ゲートボール上達ハンドブック・ゲートボール上達ハンドブック 2・ゲートボール上達ハンドブック 3・ゲートボール上達ハンドブック 4・ゲートボール上達ハンドブック 5・理想の一手 |
| パンフレット等 | <ul style="list-style-type: none">・レッツトライ! ゲートボール・レッツトライ! リレーションー 2 & 3・販売物品パンフレット・全世代型ゲートボールクラブの育成・ゲートボール普及活動促進BOOK・魅力発見! ゲートボール (DVD・VHS) |

(4) 通信衛星放送による普及啓蒙番組「スーパーゲートボール」の製作と放映(300 万円)

全国大会を中心に、テーマ設定したコーナーを織り込みながら、年間 27 番組を新規制作し、再放送分を加えて毎日放映した。

期 間	平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
制作・配信	株式会社日本レジャーチャンネル
配信方法	①スカイパーフェクTV! 380ch

②ケーブルテレビ 164局（平成22年3月31日現在）

放送回数 365回（毎日8:00～8:55）

※平成22年2月1日より、放映時間が6:00～6:55に変更

16. 国際交流活動事業（日本財団助成事業）（1,204万円）

世界ゲートボール連合やアジアゲートボール連合の加盟団体や普及国・地域における国際親善大会の開催に伴い、国際審判員や選手を派遣するとともに、指導員を積極的に派遣して技術力向上に努めたほか、愛好者より寄贈された中古用具を普及の兆しのある国や地域に配布し、ゲートボールを通じた国際親善交流の促進を図った。

(1) 海外への派遣

以下のとおり役員、職員等を派遣した。

台湾(高雄市)	7月15日～20日	大会出席ほか	2名派遣
中国(北京市・上海市)	9月23日～27日	大会出席	1名派遣
オーストラリア(ロクハブト)	10月15日～20日	大会出席	1名派遣
香港	11月12日～16日	大会出席	1名派遣
澳門	11月16日～19日	大会出席	2名派遣
フィリピン(セブ島)	12月5日～8日	大会出席	1名派遣
中国(上海市)	12月16日～18日	世界選手権大会打合せ	3名派遣
中国(上海市)	3月25日～28日	世界選手権大会打合せ	3名派遣
中国(北京市)	3月26日～30日	大会引率	1名派遣

(2) 第3回ジュニア国際交流ゲートボールオープン大会

海外のジュニア選手を招聘し、日本のジュニア選手との国際交流を深めるとともに、国際的な視野・感覚を身につけたジュニア層の育成を図ることをの区的とし、本大会を開催した。

期 日 平成21年8月10日(月)

開催地 埼玉県熊谷市

会場 熊谷スポーツ文化公園 彩の国くまがやドーム

主管 埼玉県ゲートボール連盟

参加国・地域 韓国、ロシア、日本

参加チーム 16チーム(韓国1、ロシア1、日本14)

参加人数 100名

順位	チーム名(所属)
優勝	健友会(日本・広島県)

別表1

役員名簿

平成22年3月31日現在

会長	小野清子	独立行政法人日本スポーツ振興センター	理事長
副会長		空席	
専務理事	遠藤容弘	財団法人日本ゲートボール連合	
常務理事		空席	
理事	木村雅治	全国都道府県体育・スポーツ・保健・給食主管課長協議会	幹事長
理事	玉利 斉	財団法人日本健康スポーツ連盟	理事長
理事	小高幹雄	BOAT RACE振興会	会長
理事	石川牧子	株式会社日本テレビエンツ	常務取締役
理事	梅村和伸	財団法人全国高等学校体育連盟	専務理事
理事	戸部英一	北海道ゲートボール連合	会長
理事	佐藤和夫	宮城県ゲートボール連盟	会長
理事	長島忠美	新潟県ゲートボール連盟	会長
理事	松本竹次	埼玉県ゲートボール連盟	会長
理事	渡辺 栄	千葉県ゲートボール連盟	副会長
理事	土居征夫	静岡県ゲートボール協会	副会長
理事	上西綱雄	奈良県ゲートボール協会	会長
理事	梶田郁宗	島根県ゲートボール協会	会長
理事	中村博彦	徳島県ゲートボール協会	会長
理事	吉富 進	佐賀県ゲートボール協会	会長
監事	西本克己	株式会社東京ビー・エム・シー	代表取締役社長
監事	船越 眞	BOAT RACE振興会	常務理事
顧問	笠原一也	国立スポーツ科学センター	センター長
顧問	小野 喬	財団法人日本スポーツクラブ協会	元副会長

別表2

評議員名簿

学識経験者

平成22年3月31日現在

氏名	所	属
河原塚達樹	(財)日本レクリエーション協会	生涯スポーツ推進部長
増田和茂	(財)健康・体力づくり事業財団	理事
大島渉	全国競艇施設所有者協議会	専務理事
藤川務	(株)日本レジャーチャンネル	代表取締役社長
今義男	海洋政策研究財団	理事長
広渡英治	(財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団	専務理事
渡邊一利	(財)笹川スポーツ財団	常務理事
森田文憲	(財)日本海事科学振興財団	理事長
天城一	社会貢献支援財団	専務理事
三ツ谷洋子	(株)スポーツ21エンタープライズ	代表取締役社長
荒木田裕子	(財)日本バレーボール協会	国際事業本部副本部長

加盟団体代表

氏名	加盟団体名	氏名	加盟団体名
山田英雄	北海道GB連合	辻野治	滋賀県GB連盟
木村定光	青森県GB協会	鈴木信久	京都府GB連合
長沼正知	岩手県GB協会	浅田光男	大阪GB連盟
酒井力之助	宮城県GB連盟	田桑稔	兵庫県GB連合
鈴木一男	秋田県GB協会	辻本隼夫	奈良県GB協会
枘田敏行	山形県GB協会	藤岡滋	和歌山県GB協会
石井賢明	福島県GB協会	中村孝太郎	鳥取県GB協会
石野雅昭	茨城県GB連合会	佐々木宗吾	島根県GB協会
小口孝夫	栃木県GB協会	光友進	岡山県GB協会
稲垣稔	群馬県GB協会	日浦道德	広島県GB連合
武井清治	埼玉県GB連盟	中田憲明	山口県GB協会
菊地信雄	千葉県GB連盟	敷田昭明	徳島県GB協会
林正男	(特)東京GB連合	川畑省三	香川県GB連盟
岡田喜久雄	神奈川県GB連合	石川忠	愛媛県GB連合
山岡重雄	新潟県GB連盟	岩本悦夫	高知県GB協会
鈴木皓哉	(特)富山県GB協会	田中忠孝	福岡県GB連合
松井邦夫	石川県GB協会	蒲地春彦	佐賀県GB協会
吉川豊	福井県GB協会	馬場喜代治	長崎県GB協会
田辺美一	山梨県GB協会	中嶋利秋	熊本県GB連合
徳武嘉久	長野県GB連盟	羽田野尚	大分県GB協会
黒田雅雄	岐阜県GB連盟	長田利光	宮崎県GB協会
中山繁男	静岡県GB協会	児玉義人	鹿児島県GB協会
山崎葉璽	愛知県GB連盟	大城哲夫	沖縄県GB連合
渋谷節男	三重県GB連合会		

別表3

専門委員会委員名簿

平成22年3月31日現在

総務財政委員会

氏名	所 属
委員長 内 間 由 男	北海道ゲートボール連合理事長
副委員長 山 内 健 夫	(財)日本海事科学振興財団元常務理事
委 員 佐々木 兼 光	秋田県ゲートボール協会副会長
〃 野 本 美 穂	長野県ゲートボール連盟事務局長
〃 稲 垣 稔	群馬県ゲートボール協会会長
〃 古 屋 文 治	山梨県ゲートボール協会事務局長
〃 山 崎 葉 璽	愛知県ゲートボール連盟事務局長
〃 辻 本 隼 夫	和歌山県ゲートボール協会事務局長
〃 吉 鶴 禎 昭	鳥取県ゲートボール協会事務局長
〃 川 畑 省 三	香川県ゲートボール連盟会長
〃 中 嶋 利 秋	熊本県ゲートボール連合理事長

競技・審判委員会

氏名	所 属
委員長 五十嵐 隆 男	北海道ゲートボール連合理事長
副委員長 長 沼 正 知	岩手県ゲートボール協会副理事長
〃 大 城 哲 夫	沖縄県ゲートボール連合理事長
委 員 古 崎 邦 夫	福井県ゲートボール協会理事長
〃 石 野 雅 昭	茨城県ゲートボール連合理事長
〃 上 原 清 孝	神奈川県ゲートボール連合理事長
〃 黒 田 雅 雄	岐阜県ゲートボール連合理事長
〃 鈴 木 信 久	京都府ゲートボール連合理事長
〃 中 田 憲 明	山口県ゲートボール協会理事長
〃 宮 本 實 實	徳島県ゲートボール協会事務局長
〃 松 尾 哲 矢	立 教 大 学 教 授

ドーピング防止委員会

氏名	所 属
委員長 五十嵐 隆 男	北海道ゲートボール連合理事長
委 員 松 尾 哲 矢	立 教 大 学 教 授
〃 加 藤 晴 康	立 教 大 学 医 師・准 教 授

普及指導委員会

氏名	所 属
委員長 若 林 静 子	新潟県ゲートボール連盟常務理事
副委員長 中 村 太 一	徳島県ゲートボール協会副会長
委 員 五十嵐 太 司 郎	北海道ゲートボール連合理事長
〃 佐 藤 黎 子	宮城県ゲートボール連盟理事
〃 小 口 孝 夫	栃木県ゲートボール協会理事長
〃 小 林 茂 量	(特)東京ゲートボール連盟副理事長
〃 土 居 征 夫	静岡県ゲートボール協会理事長
〃 田 桑 稔 義	兵庫県ゲートボール連合理事長
〃 本 郷 明 義	広島県ゲートボール連合理事長
〃 児 玉 義 人	鹿児島県ゲートボール協会会長

別表4

事務局組織図

平成22年3月31日現在

